

新型コロナウイルス感染症流行下の 看護職における家族看護の困難と技： 日本家族看護学会会員へのWebアンケート (第1回：2021年夏実施) 結果

一般社団法人日本家族看護学会総務委員会 Covid-19調査WG

佐藤伊織¹⁾、深堀浩樹²⁾、キタ幸子¹⁾、大城怜³⁾、菊池良太⁴⁾、

村本美由紀¹⁾、副島堯史⁵⁾、目麻里子¹⁾、上別府圭子⁶⁾

1) 東京大学大学院 2) 慶応義塾大学 3) 兵庫医科大学 4) 大阪大学

5) 神戸大学 6) 国際医療福祉大学

(開示すべきCOIはありません)

背景

新型コロナウイルスの流行は医療現場へ著しい影響を及ぼしており、看護職は様々な困難を経験している

- 日本小児看護学会会員による2020年6～7月のWebアンケートへの回答から、感染拡大により仕事と生活がいずれも非常に変わり、特に仕事については「実践の場の変化」「子どもの様子の変化」「付添・面会の変化」「家族への看護の変化」が詳しく明らかにされた [1]
- 介護保険サービス事業所における2020年5月時点の調査では、ほぼ全ての事業所が各種業務の増加を経験していた [2]
- 地域介護予防活動支援事業の職員は、利用者減少・職員自身の恐怖・住民の非難等の経験を語った [3]
- 医療従事者のメンタルヘルスの課題は重要であり [4]、Covid-19対応に前線で活動している医療従事者は特に [5]、またそうでなくても [6]、うつ・不安・不眠・PTSD症状等を経験していた

[1]一般社団法人日本小児看護学会広報委員会. (2020) 小児看護におけるCOVID-19に関するアンケート調査 (第1報). <https://jschn.or.jp/files/2020/12/COVID19アンケート第1弾.pdf> [2]一般社団法人人とまちづくり研究所. (2020) 新型コロナウイルス感染症が介護保険サービス事業所・職員・利用者等に及ぼす影響と現場での取組みに関する緊急調査【事業所管理者調査】. <https://hitomachi-lab.com/official/wp-content/uploads/2020/06/f9780dfebd9260cfd1d48cb50c374e2.pdf> [3]櫻井理加. (2021) 地域高齢者の「通いの場」でのCOVID-19流行下の困難：職員の体験に関する質的研究. 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻2020年度修士論文集. [4] Xiang YT, et al. (2020) Timely mental health care for the 2019 novel coronavirus outbreak is urgently needed. *Lancet Psychiatry* 7: 228-9. [5] Shigemura J, et al. (2020) Public responses to the novel 2019 coronavirus (2019-nCoV) in Japan: Mental health consequences and target populations. *Psychiatry Clin Neurosci* 74: 281-2. [6] Asaoka H. (2021) Post-traumatic stress symptoms among medical rescue workers exposed to COVID-19 in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci*.

背景

看護職が経験している様々な困難の一つとして、家族支援の必要性が増大していること、しかし家族支援の困難が多々あることが挙げられる

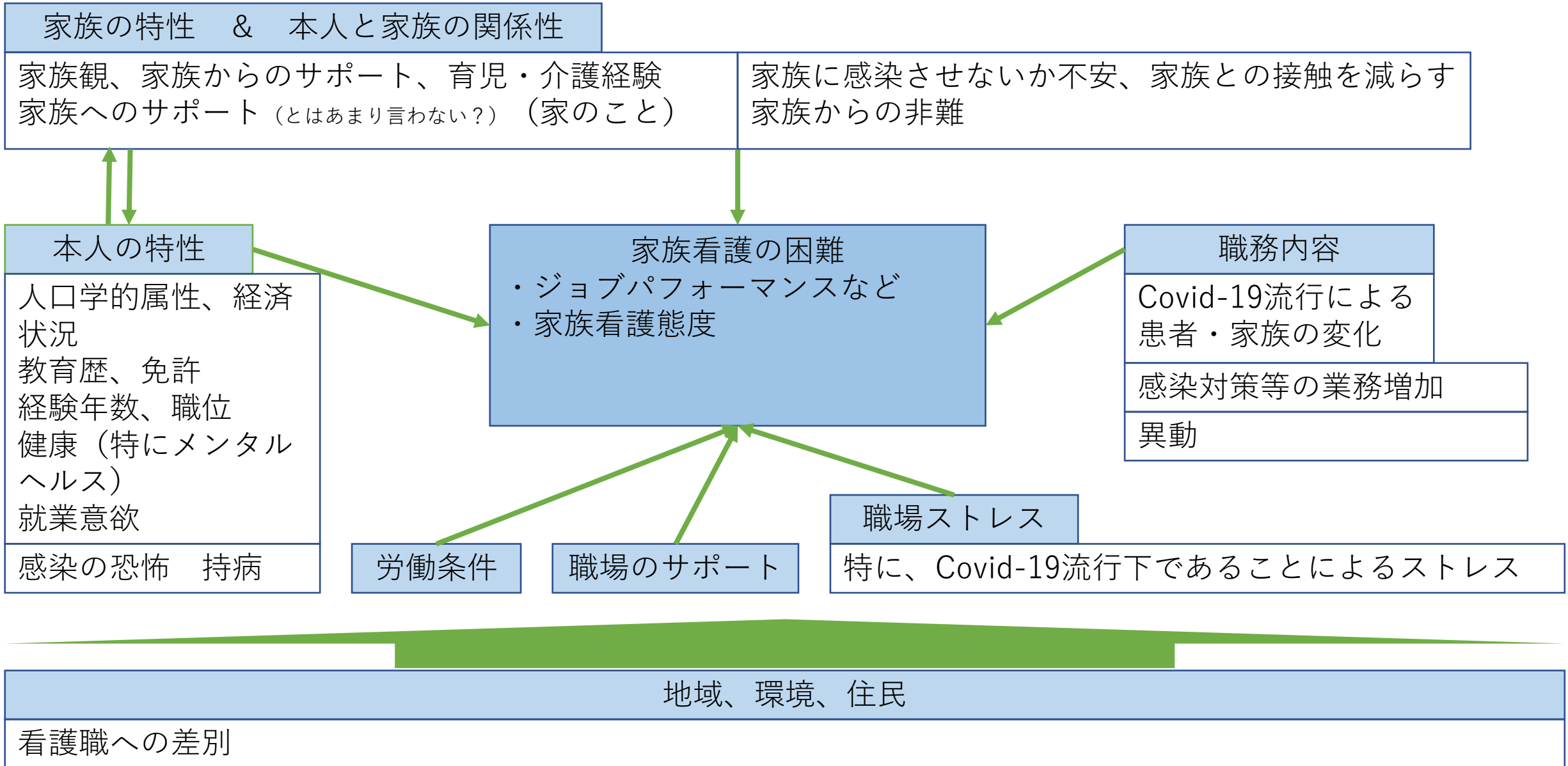
- 家族支援CNSのほとんどが、2020年4～5月時点で、家族ケアの必要性が増加し、困難性が高まっていると述べた[7]
- 日本小児看護学会会員の多くが、面会や付添が制限されている中での家族支援の難しさや看護師の負担の増加など「家族への看護が変化した」ことを述べ、中には（42名中3名）「家族との関係が悪化した」場合もあった [8]
- 面会制限のもとで看護師が家族に関わる場合、看護師は特に非対面でのコミュニケーションの難しさや（患者と家族の関係性や家族の思い等の）観察の難しさ、スムーズに介入・支援・多職種連携を進めることが難しいと述べた [9]
- 未曾有の事態に、知見が少なく予見できないことも多く（例：感染対策のために遺体と対面できなかったことの遺族への長期的影響は？）、手探りでの支援が求められる [10]

背景

整理

- 家族看護の場合は？
 - 家族看護は看護の一部であり、ジョブパフォーマンスが下がれば（極端な話、離職すれば）、家族看護を十分に提供することはできない
 - 家族看護については特に（さらに）、家族看護学学習経験、臨床経験年数、職位、自身の家族観、家族介護経験等が、家族看護実践に関連する[12]
- Covid-19と看護職と家族について
 - 看護職は、感染流行による仕事上の精神的負担の増加のほか、多くの方が自分が家族に感染させる不安を持っていたり、精神健康が損なわれたり、家族との接触を減らす方法をとったりしていた。自由記述から、家族からを含めた偏見や差別、また看護師の家族に影響が及んでいることが記載されている。[13]
 - 介護保険サービス事業所管理者は、Covid-19流行の事業所職員への影響として「休園・休校中の子どもの世話や介護、家事等に伴う就業調整・休職」「本人・同居家族の体調不良、感染や濃厚接触に伴う就業制限」「本人・家族の感染不安による就業調整・休職」を多く挙げていた。組織としての健康管理を実施している機関では、職員のみならず同居家族まごとの健康状態のモニタリングを行っているところが多かった[2]

背景



方法

研究デザイン

- Webアンケートを用いた縦断的観察調査

対象

- 日本家族看護学会の会員（2021/8/1時点）
- 自身のメールアドレスを学会に登録している者
- 除外基準は特になし
- 各回の協力を個々に（その時ごとに）同意/非同意の意思を表明できる

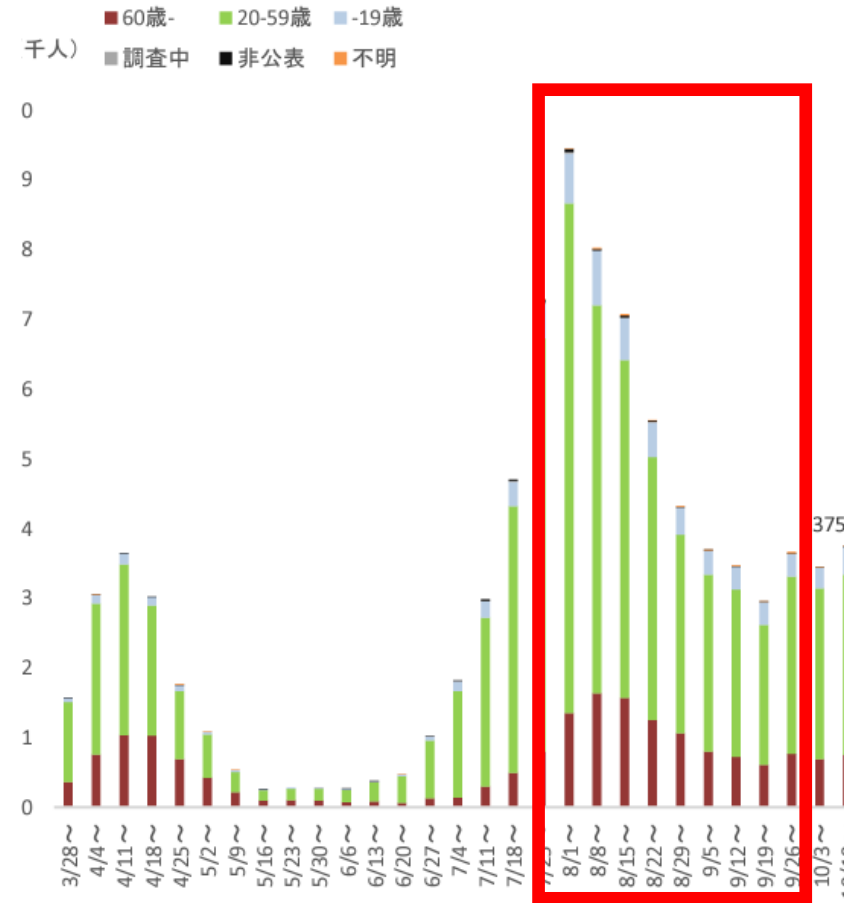
倫理的配慮

- 東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会で承認済
 - 多機関共同研究（参考：人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針）
- 参加者への利益
 - 最後まで回答し、かつ希望される方には、結果の速報をメールで送付（この研究が明らかにする、全国の実態や意見を、先に知ることができる）
 - 最後まで回答し、かつ希望される方には、Amazonギフト券をメールで送付（臨床実践者は500円ぶん、教育研究者は300円ぶん）

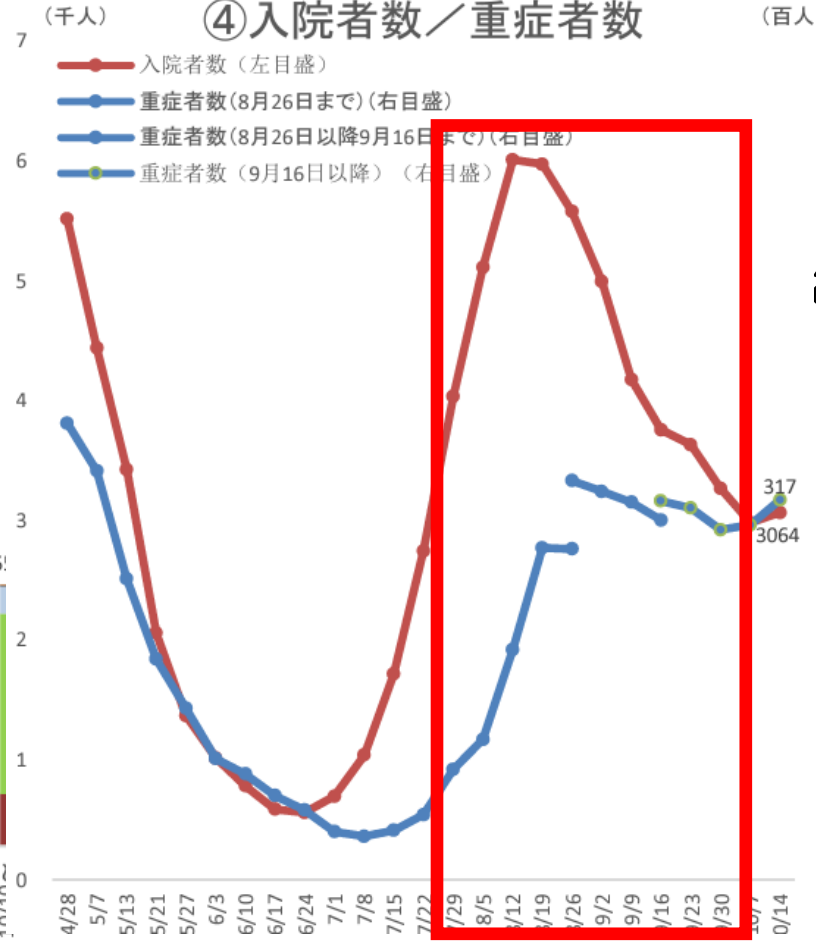
方法

調査時期：コロナ第二波の真っ最中

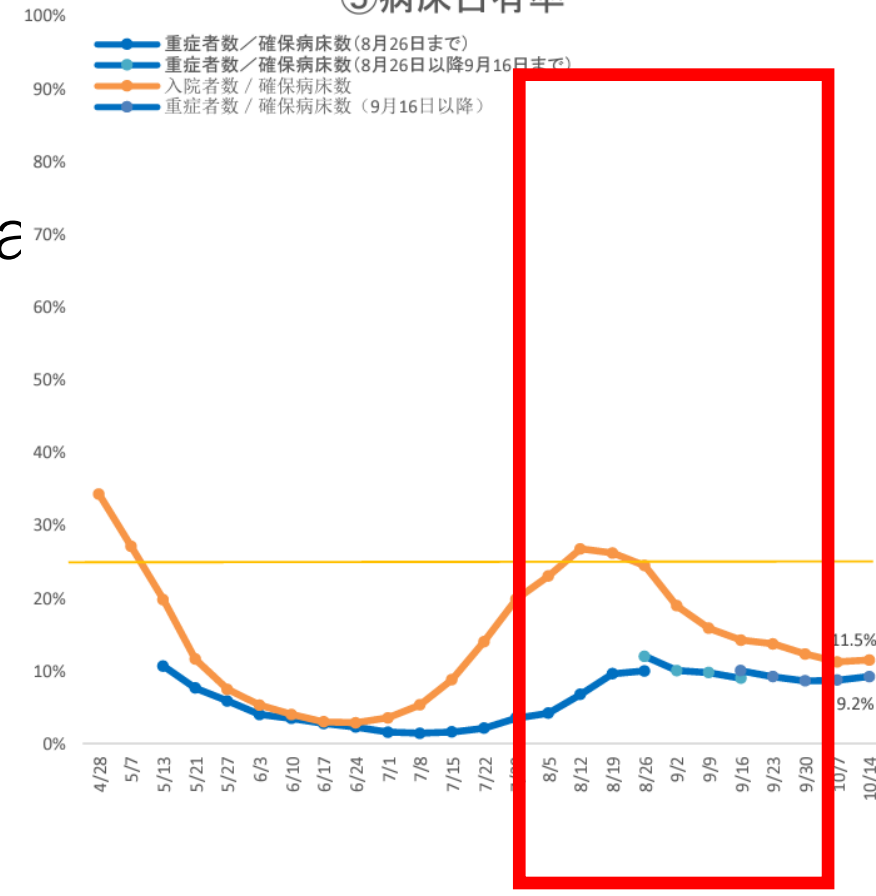
①新規感染者報告数



④入院者数／重症者数



⑤病床占有率



結果

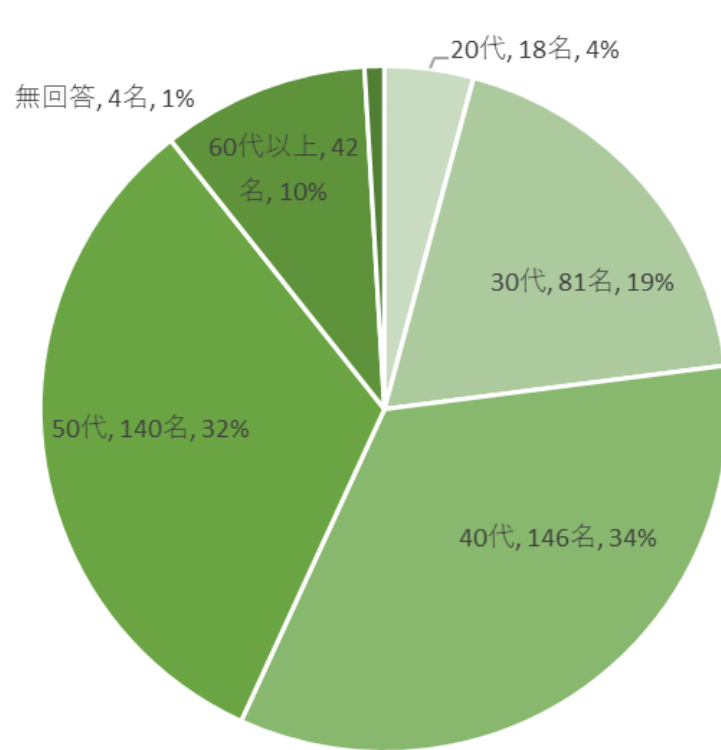
回収・回答状況

- メールアドレス登録のあった会員 1443名
 - 回答数 556名
 - 非同意 30名
 - 同意 526名
 - 回答が全てblank 54名
 - **有効回答者数 472名**
 - 最後まで回答した者の数 427名
 - 平均所要時間 34分

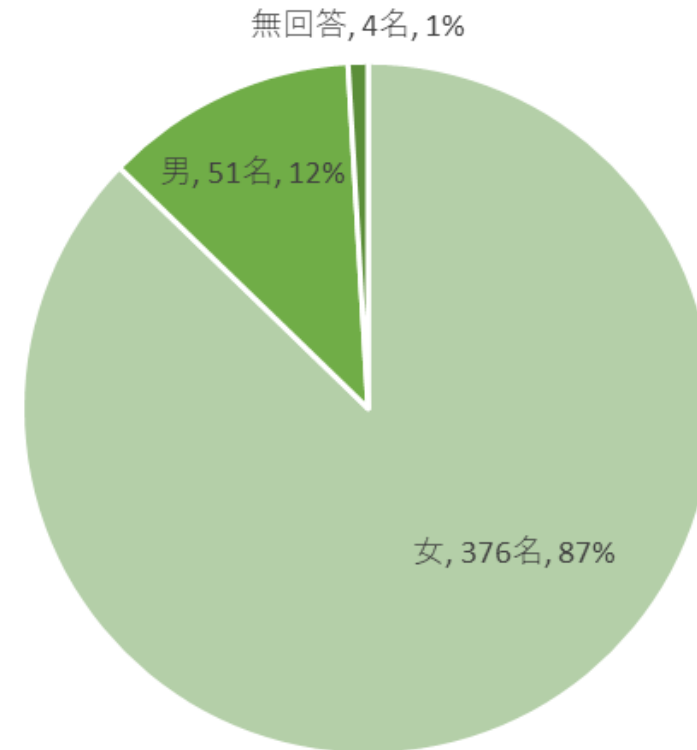
次スライドより結果を示していきませんが、時間が無いためかなりの早送りで説明いたします（正確な値を詳細にお見せできません）。

「家族看護学研究」28巻（2023.3発刊）掲載のWG報告をお待ち下さい。

回答者の属性 (N = 472)

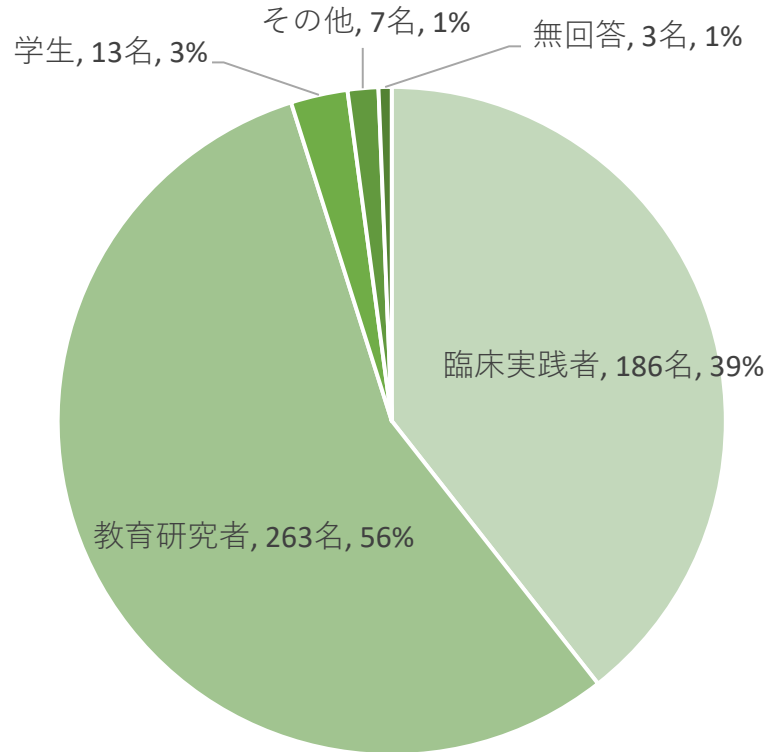


【年齢】



【性別】

回答者の属性 (N = 472)



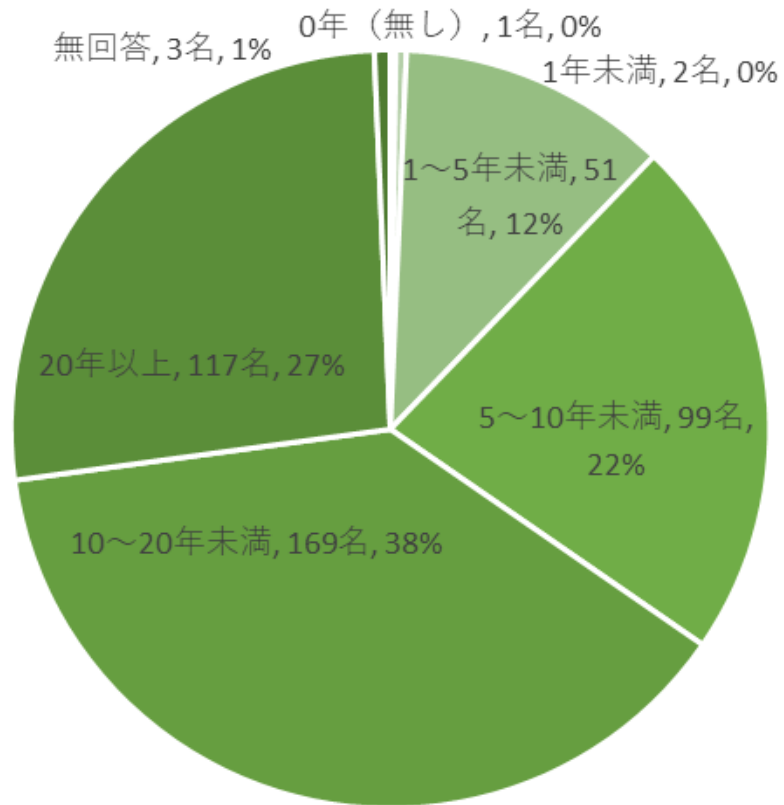
【主な立場】

看護師	463	(98)
保健師	237	(50)
助産師	59	(13)
准看護師	12	(3)
専門看護師	65	(14)
認定看護師	20	(4)
心理士	5	(1)
その他**	79	(17)
いずれも保有していない	1	(0)

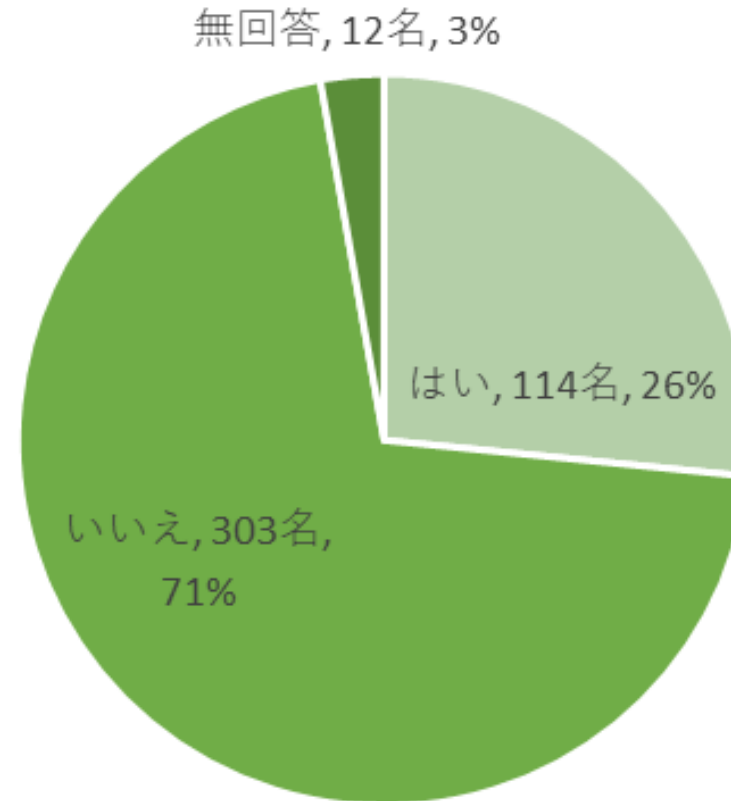
【保有資格】

**医師、SW、養護教諭、認定遺伝カウンセラー、ケアマネージャー

回答者の属性 (N = 472)

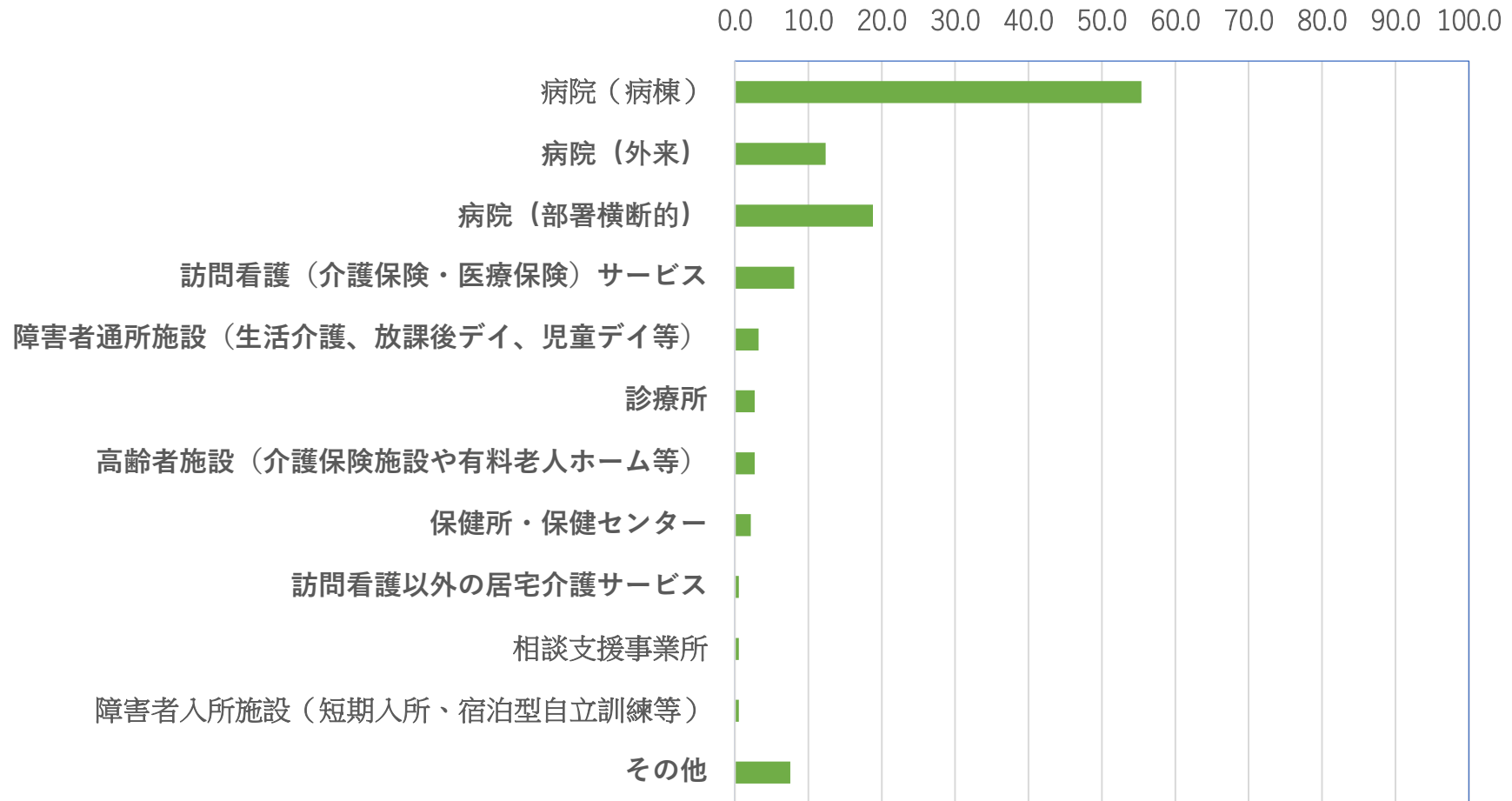


【臨床経験年数】



【管理職】

就労場所 臨床実践者のみ (n = 186; 複数回答)



その他例：

病院含む法人グループ内看護統括、小児在宅医療教育支援センター（看護師）、子ども家庭支援センター、予防医学センター、認知症初期集中支援チーム、通所型リハビリ施設、ワクチン集団接種、病院臨床研究センター、救命救急センター、看護専門学校で講師、救命救急センター初療室、手術室、特別支援学校、訪問入浴

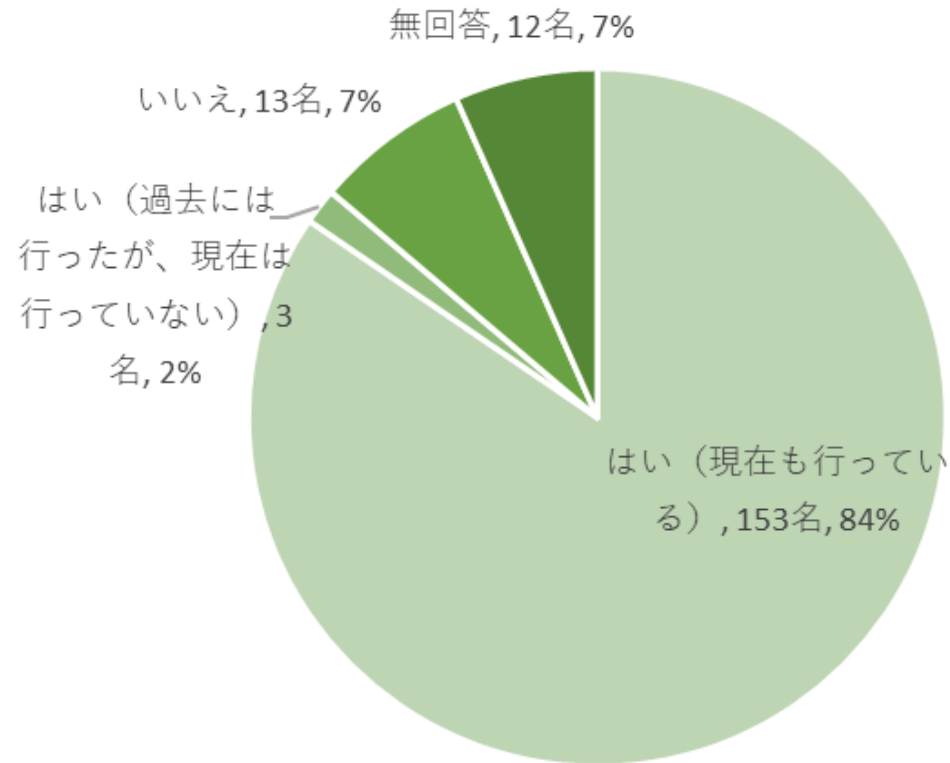
臨床・実践活動における主な対象 臨床実践者のみ (N = 186; 複数回答)



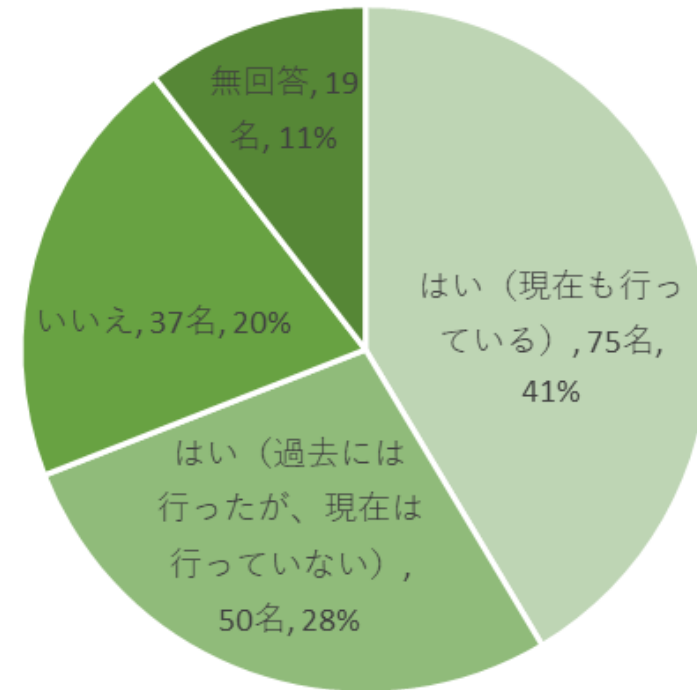
所属施設の状況

所属施設の状況 臨床実践者のみ

(n = 181)



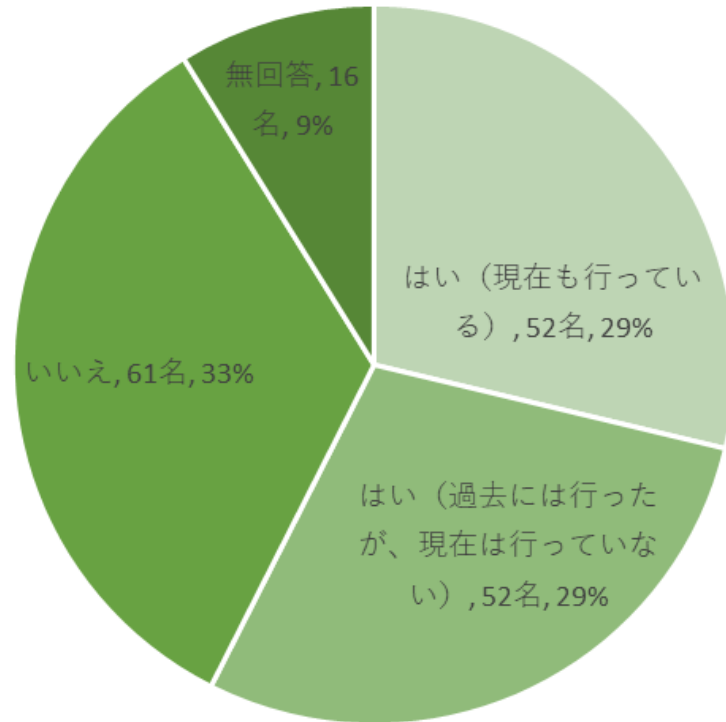
【面会制限】



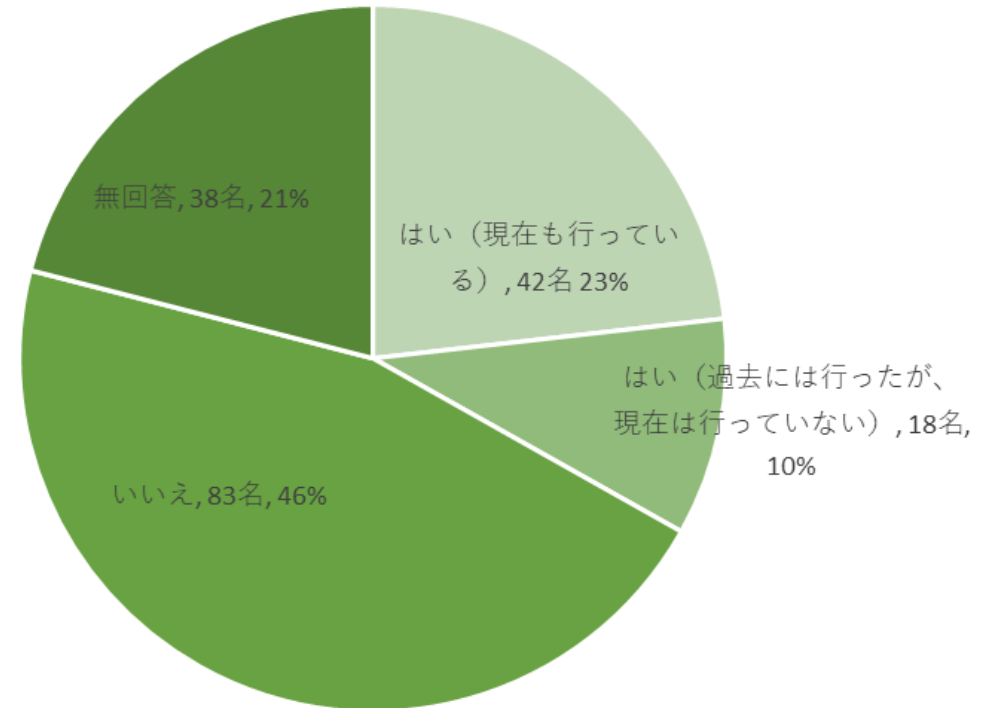
【通常診療の制限・延長】

所属施設の状況 臨床実践者のみ

(n = 181)

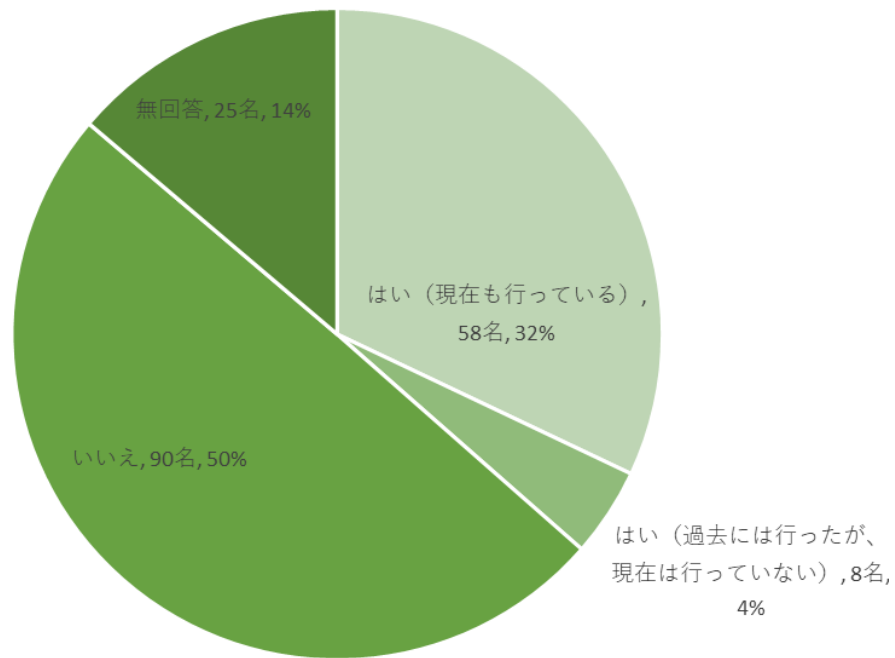


【入院治療の外来移行】

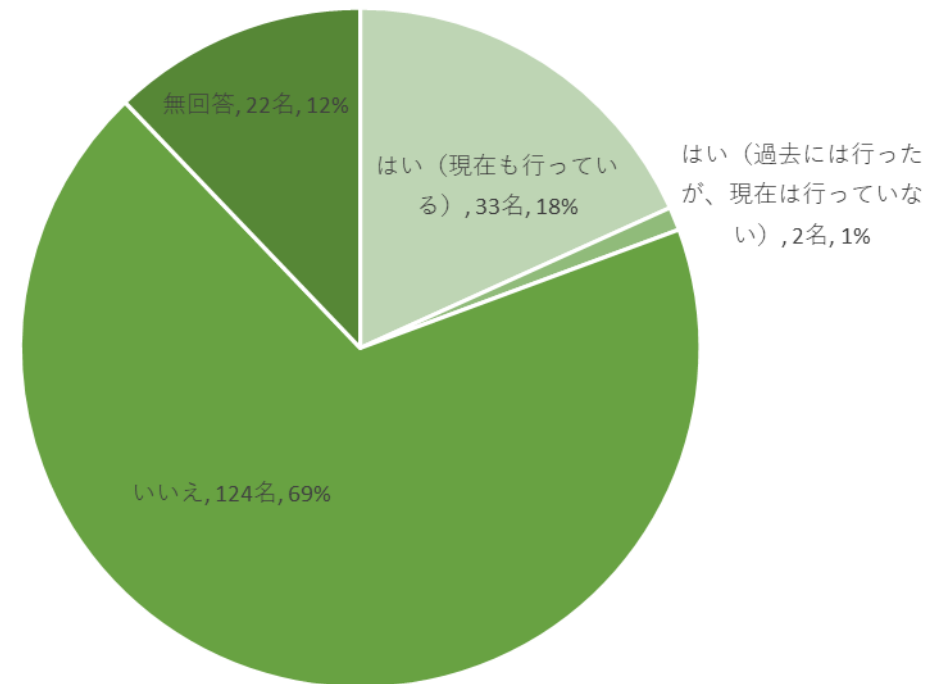


【新規患者受け入れ制限】

所属施設の状況 臨床実践者のみ (n = 181)



【患者のオンライン診療・相談】

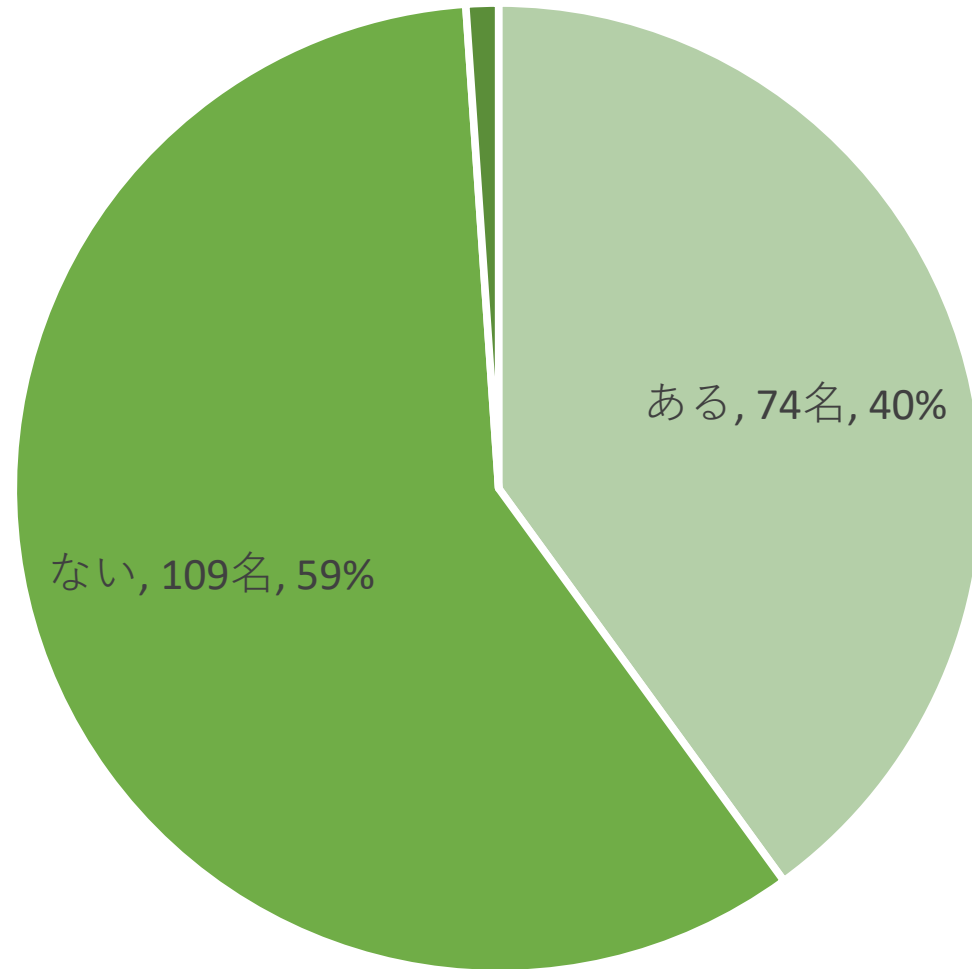


【家族のオンライン相談】

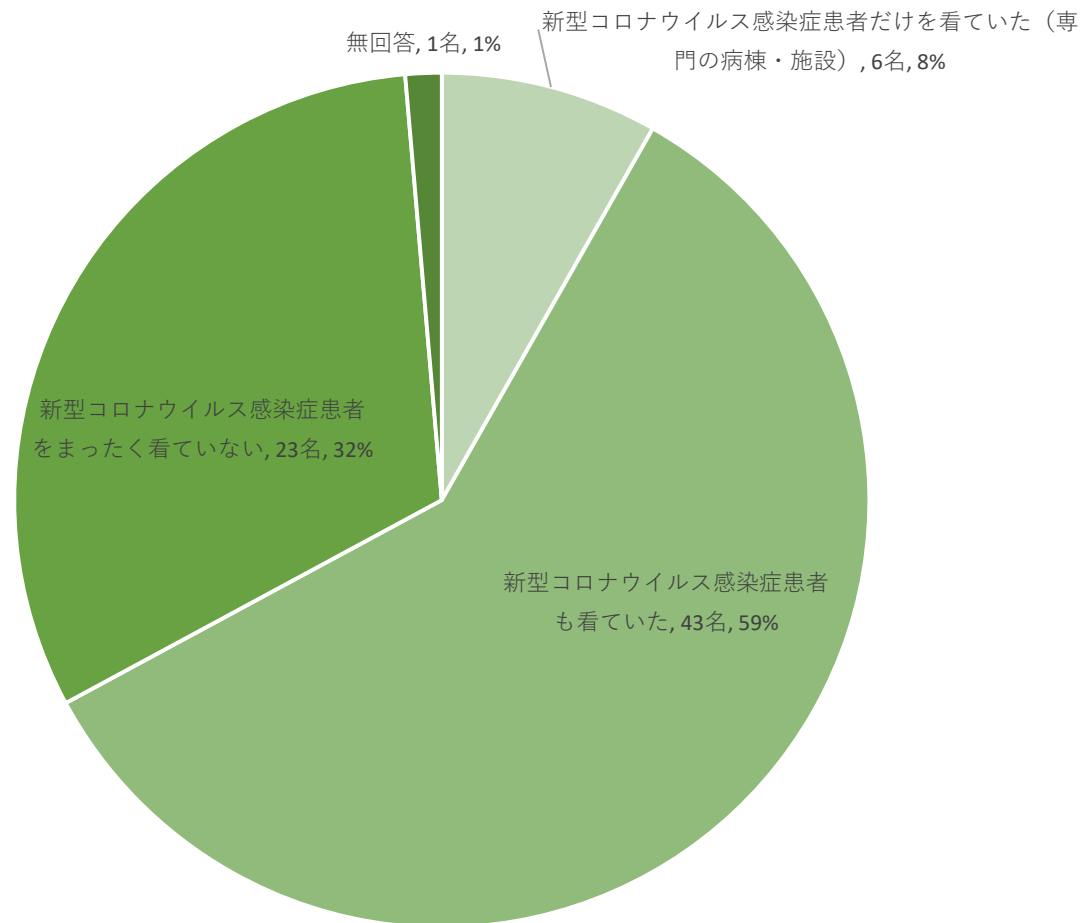
家族看護の困難

過去1年半のうち
新型コロナウイルス感染症患者の看護経験
臨床実践者のみ (n = 185)

無回答, 2名, 1%



過去1か月のうち 新型コロナウイルス感染症患者の看護経験 臨床実践者のみ (N = 73)

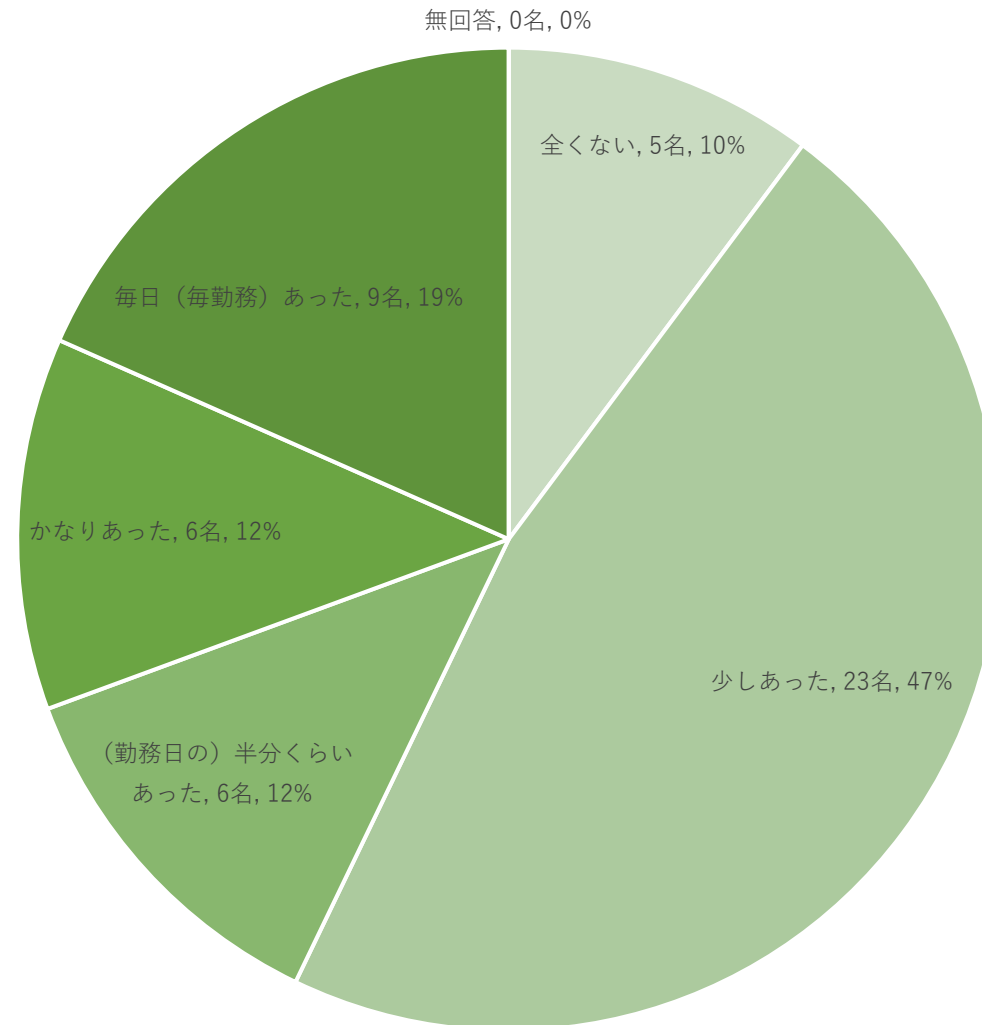




新型コロナウイルス感染症患者の看護経験

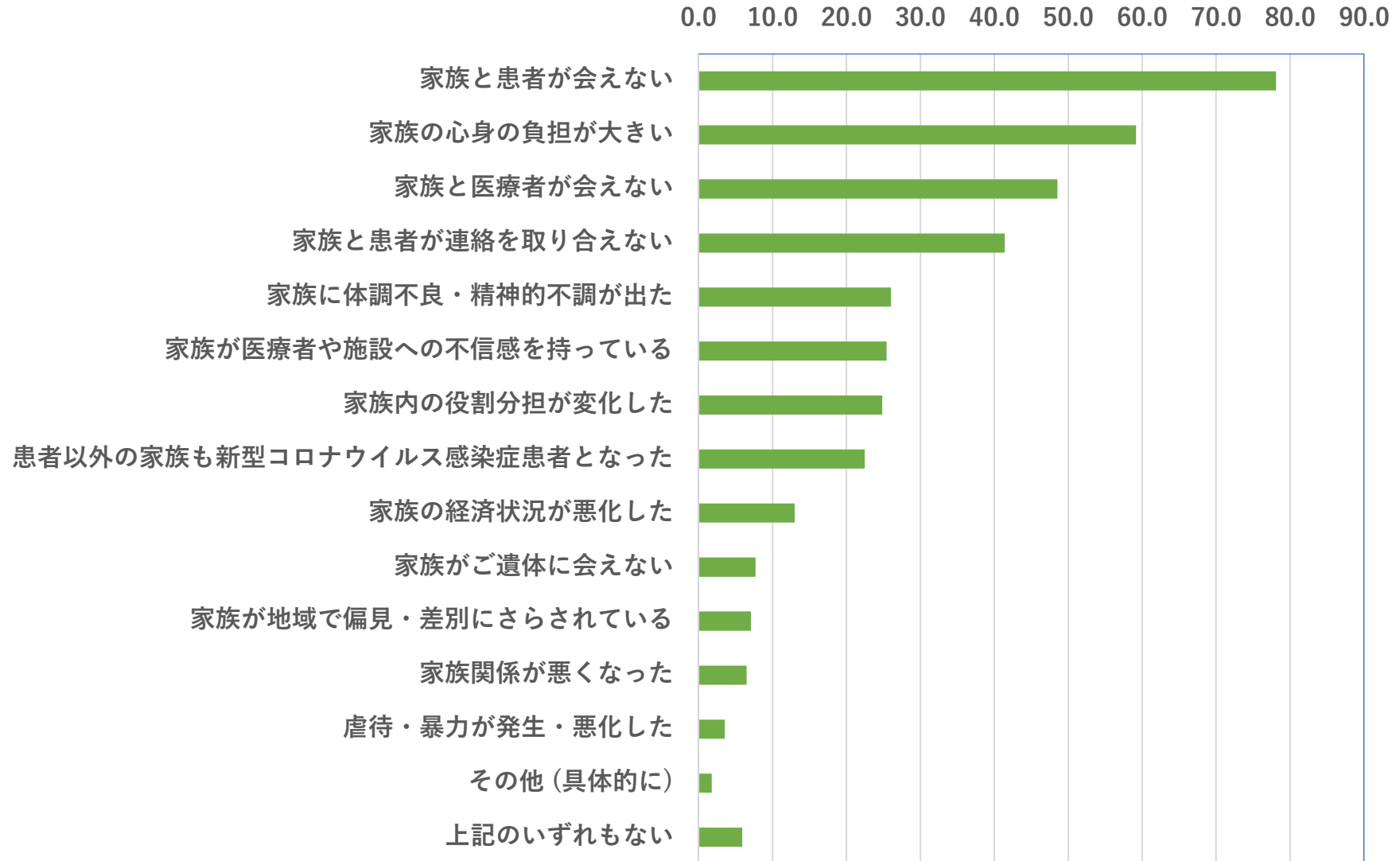
- 1年半で、1度も見ていない 59%
- 1年半で、1度以上はみた 41%
 - 1か月で、1度もみていない 13%
 - 1か月で、Covid-19患者とそうでない患者を両方みていた 25%
 - 1か月で、Covid-19患者だけをみていた 3%

過去1か月のうち 新型コロナウイルス感染症患者への 直接的ケア経験 臨床実践者のみ (n = 49)



過去1か月のうち

新型コロナウイルス感染症患者か否かに関わらず
あったこと 臨床実践者のみ (n = 169, 複数回答)



過去1か月のうち 新型コロナウイルス感染症患者の看護であったこと 臨床実践者のみ(n = 49)





新型コロナウイルス感染症患者で特にあったこと

- 家族がご遺体に会えない
- 家族も新型コロナウイルス感染症患者になった

同程度にあったこと

- 家族と患者が会えない
- 家族と患者が連絡を取り合えない
- 家族と医療者が会えない
- 家族の心身の負担が大きい
- 家族に体調不良・精神的不調が出た

新型コロナウイルス感染症患者では少なかったこと

- 家族が医療者や施設への不信感を持っている

過去1か月のうち

新型コロナウイルス感染症患者か否かに関わらず
経験したこと臨床実践者のみ (n = 181, 複数回答)

